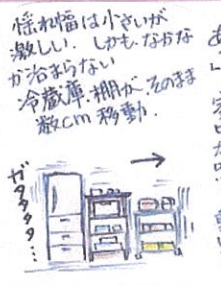


ふくらく通信

2011年 第3号 7月20日発行
総号数 53 発行人 菅野香織

大地震から明日へ

3/11 自宅の居間午後3時まであと十数分が閉こえる。発動機のようなブーンという音が聞こえる。あー！家中が鳴り動いた。



揺れが一旦弱まるも大きな余震が続く。家が乗り物のようだ。4時頃か、窓の外に雪がちらちら...



3/13 仙好台は晴天。日中は暖かい。外に出てもいい。長町通りを歩く。

よくカメラを持ち歩く自分だが、この光景は撮らなかつた。この震は、町や人の魂を運んでいる。写真よりも記憶に残そうと思つた。



生涯、この光景を忘れないだろう

長町周辺の様子
高架橋の途中に列車停止。駅は封鎖状態。建物の外壁、窓歩道の継ぎ目など破壊。道路に起伏や段差。比較的被害が少ない。あすと長町は、電気が12日の夜に復旧し、信号が一部点灯していた。

3/14

余震は頻繁。でも店は、できる所から営業。心算が狂った。水はあります。下貼り紙を出す。店もあり。

20日以降

駅、鉄道工事中。飲食店、花屋、美容院など再開の店増える。他県からの助け。懸命な復旧作業のおかげで、早く復旧。うち、28日に入浴できた。

仙好の町、動き始める。明日はもっと良くなる。そう思えた。

4/22

震災から一ヶ月以上経過。閉上へ行く。壁に車が突き刺さっていた。知人の家。今は車が取り除かれていた。

名取市 東側の様子
市役所から東は、進たたび物が散乱。瓦礫が多くなる。閉上通りも通れ道ができていた。重機で瓦礫を集め、道の端に寄せている。最前線で働く自衛隊に頭が下がる。これは毎日、大変な作業だ。

酒屋にお菓子屋がまはこ屋が並んでいた通りが消えている。ここが、あの場所だったろうかと、分らなくなる。

水揚げがある。赤貝井ののりが出ていた港の周辺。かつて猫が横切った長閑な光景はもうない。緑に囲まれていた所も、決別のようになっている。



帰り道、田んぼの一角に産卵した。男性の背中を見た。切なかつた。猛禽の二文字が浮かぶ。

実は、3月末から、自分は猛禽対策について調べ続けていた。おとなしく、早々に熊本県が動員していることが分かった。嬉しかった。

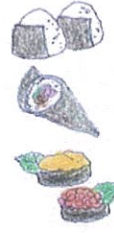
熊本市と塩釜対策
1999年、八代海沿いの田畑が台風で浸水。県や自治体が連携して土壌改良を行った。
除塩の技術
農林水産省に情報提供
被災地、職員の情報提供
必要なら検査

今回は広大な土地で、大規模な作業となり、課題も多かった。だが、行政機関と地域

5/2

松島へ行く。利府街道を通ると梨の花が満開だった。秋の旨い、利府梨を楽しみに思う。田んぼが、所々に代掻きされた。風景を見ながら進む。坂道を上り詰めた向こう、松島の海が見えてくる。

五大堂周辺の通りを歩き、営業を再開した店に寄って見た。津波で、再開も大変だった。津波で、疲れもあろうに、声を掛ける。店の方々は笑顔を見せ、あたたかく穏やかな空気が流れた。



惹かれたのは、やはり松島の海苔である。東松島の天谷地区は、皇室献上海苔として知られる。良質の海苔の産地だった。今回の津波で、養殖棚も失い、復活は大変な苦勞だろう。

（しかし、地元の人々は諦めてはいない。復活への思いが、東松島の広報に記された。その松島の海苔を、気軽に食べやすく加工した味海苔もある。今販売されているのは、被災前収穫の在庫の海苔だ。一味の、記憶し、復活へと踏ん張る生産者と、思いを共有したい。

松島のりの他にも...
○北元の6Pと若手の将家を使った松華堂のカステラも販売再開
大勢のEPの産地は、どろどろ...
320発射の利府の広報に「野谷養鶏場 EP 2400個と、物資提供欄に記載あり。良かった。ほっとした。水波館も再開。津波後、ペンギンの赤んぼが生まれていた話もあつた。



8月には仙好七ツ祭りも開催される。東北人は、自ら奮起し、辛抱強く、復興への道を歩き始めている。